

おじさんだ〜れ？

——ご挨拶——

南極より寒中お見舞い申し上げます。

私は、現在南極にて第49次南極地域観測隊員として生活しております。今回は大気中のエアロゾルを分析するためにパーティクルアナライザー（DP-1000）および蛍光X線分析装置（XGT-5000 いずれも堀場製作所製）を初めて昭和基地に持ち込み現地で分析を行います。従来は、サンプリング試料を隊員が日本に持ち帰り、分析を行っていたため、冷凍保存しても状態が変質するという難点がありました。しかし、今回は現場で分析を行うため、より正確なデータを把握することが可能となります。また、GPS 航行の無人飛行機を用いて、昭和基地や海水域や大陸域上空の微粒子を高度別に採取し、個々の評価分析も行う予定です。12月中旬から南極で1年余り現地に赴き、研究していきます。

南極は今、夏ですが、平均気温は−数℃で風が強いと体感温度は−10℃以下となり、やはり寒いです。また、太陽が一日中沈まない“白夜”の状態、夜中でも太陽が出ていて不思議な感じです。良いことなのか悪いことなのかわかりませんが、日本のように暗くなったから「そろそろ夕方か」というように、外の状況では仕事の終わりどころがわかりません。（もちろん時計はあります。時差日本時間からマイナス6時間。）昭和基地に降り立った印象としては、想像していた辺り一面雪と氷の世界ではなく、土や岩の露出する光景で、「ぜんぜん南極っぽくないな」というのが正直なところ。到着して間もないこの時期、我々越冬隊員は、すぐに研究に入れるのではなく、設営作業といって建物、施設、設備の増設、補修等で重機、トラックなどを扱って作業するため、さながら土木作業現場に連れてこられた感じです。しかし、昭和基地から東に目を向けると、一面氷に覆われた壮大な南極大陸が広がり、やはりここは南極なのだと実感させられます。（昭和基地は南極大陸ではなく、大陸から西に4kmほど離れた東オングル島にあります。）

タイトルの「おじさんだ〜れ？」に関してですが、昨年7月末に生まれた長男がおり、日本に帰国するのは来年3月、息子は1歳半ということで、帰ったら息子にこんなふうに見える、泣かれるのではないかと不安を抱きつつ、このタイトルに



昭和基地ヘリから（昭和基地の全景）



昭和基地海水から（昭和基地主要部）



昭和基地に接岸した（海水上に停泊）しらせとバックは南極大陸
南極大陸としらせ



昭和基地を象徴する19（いちきゅう）広場で浅野隊員、後方左は昭和基地主要部の管理棟

昭和基地看板前ペンギン

しました。

ここでは日本では味わえないような貴重な経験ができると思います。このような機会を与えてくださいました山口東京理科大学の菊地 正先生にこの場を借りてお礼申し上げます。また、本誌に掲載させていただくことを快諾してくださいました編集委員会にもお礼申し上げます。

これからも、南極での研究や生活に関してアカデミックな内容もできるだけ取り入れつつご紹介していきたいと思います。

〔山口東京理科大学 浅野 比〕